

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築物(2016年版) 名古屋中規模建築物環境性能評価マニュアル(2016) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名港ビルディング建替プロジェクト	階数	地上18F
建設地	名古屋市港区入船二丁目 401,402,403,404,405,406,407,412,413,414	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	800 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,304 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2019年12月5日
敷地面積	3,774 m ²	作成者	
建築面積	983 m ²	確認日	2019年12月12日
延床面積	15,988 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>= BEE2.2 ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.5</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.6</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 3.1</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.8</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.6</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4</p>

3 設計上の配慮事項	
<p>総合</p> <p>高層ビルの建替計画の取り組みとして、周辺環境は低・中層ビルが立ち並ぶ地域であるため、敷地内においては場内緑化及び屋上緑化とした緑を積極的に取り入れ、セットバックを大きく取ることで圧迫感を与えないよう地域環境に配慮している。遮音、騒音環境に配慮し、高い機能性や耐用性・信頼性、対応性・更新性を備えることで、優れた労働環境を長期に維持・利用できる建物として計画している。</p>	<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>音環境では遮音、吸音性能共に高水準を確保し、労働環境としての居心地の良さについて配慮した設計としている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>内装仕上げ材には、耐用年数の長い部材を使用している。対応性・更新性としては、空間のゆとりがあり、いずれの設備の更新性もほとんど仕上げ材を痛めることなく済むよう配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物外皮への熱負荷抑制や設備システムの効率化において高い水準を確保している。照明器具は全台LED照明器具を採用することで、省エネルギー性に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>非再生資源の使用量削減として部材の再利用可能性向上を取り組んでおり、環境に優しい建築を目指している。</p>
<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>都市景観形成地区における築地地区の整備基準である三角デザインを外観一部に採用し、主要な色彩は、高透明度かつ無彩色カラーとしている。敷地南側には植栽とベンチを多設し、周辺住民に開放的な内部空間を設け地域環境にも配慮している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>交通負荷抑制として平場駐車場と駐輪場を適切に配置し、従業員用駐車場と来客用駐車場を明確に区別しそれぞれに入場動線を確保している。廃棄物の処理負荷抑制も十分に行うことで、敷地外への影響を極力少なくなるよう努めている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される